

研究者総覧：ミギー、デイラン (MCGEE, Dylan)

氏名	ミギー、デイラン (MCGEE, Dylan)	
職名	特任准教授	
所属講座	グローバル 30 (国際言語文化研究科)	
学位 (専攻分野)	博士 (比較文学、プリンストン大学)	
メールアドレス	mcgee@lang.nagoya-u.ac.jp	
研究分野	近世日本文学・出版文化 (Early Modern Japanese Literature/Print Culture)	
	比較文学 (日本・中国)	
	翻訳・評論	
現在の研究テーマ	近世尾州における出版文化史・書物通流 江戸版本における読者による書き込み・落書き・戯画	
所属学会	近世日本文学学会 (日本)	
	全米日本文学学会 (米国)	
主要著書・論文	“Turrets of Time: Clocks and the Configuration of Narrative Time in Edo Fiction (1780-1796). <i>Early Modern Japan: An Interdisciplinary Journal</i> (2011): Forthcoming.	
	“The History and Performance Aesthetics of Early Modern <i>Chaban Kyogen</i> ,” <i>Early Modern Japan: An Interdisciplinary Journal</i> (2010): 126-135.	
	“Enjirō’s Revenge: Parodic Constructions of Masculinity in Early Modern <i>Kibyōshi</i> ,” <i>Proceedings for AJLS</i> , vol XVIII (2010): 191-198.	
	“Philologist of a Found Classic: Coterie Editing, Pseudo-Commentary and the Topos of the Found Manuscript in Ueda Akinari’s <i>Kuse Monogatari</i> ,” <i>Southeast Review of Asian Studies</i> (2009): 113-126.	
	“The Chrysanthemum and the Gourd: Theorizing the Formation of Literary Identities in Early Modern Japan in the Context of Signets, Seal Marks, and Pseudonyms,” <i>Proceedings for AJLS</i> , vol XVI (2008): 209-214.	

<p>自己紹介文</p>	<p>2009年にアメリカのプリンストン大学で博士号(比較文学——日本と中国)を獲得し、ニューヨーク州立大学ニューパルツ校で教鞭を取りました。ほぼ三年間、日本・中国・古代インド文学など、多岐に渡る授業を担当していました。この度、六年ぶりの日本長期滞在ですが、毎日の日常生活を満喫しています。江戸時代(1603-1868)の大衆文学(特に浮世草子・八文字屋本・黄表紙などの娯楽物)を中心に研究しています。出典研究よりも書誌学的、文学史的、或いは社会学的な研究だと言えるでしょう。作者よりも読者のほうに焦点を置いて、具体的に近世読者はいかに当時の文学作品を受容していたかということの問題にしながら、現在、日本の各図書館において幅広い蔵書調査を行い、版本における読者による落書きや戯画の資料を集めています。是非、日本の学者にもこういう近世読書のサブ・カルチャーをご鑑賞いただければと思います。貸本屋にて通流された書物には落書きや戯画が特に多いのですが、その関連で明治31(1898)までには日本一大きな貸本屋(名古屋の城下町長島五丁目にあった「大惣」という店)の研究もしています。今後、大惣だけではなくてそれほど知られていない知多村木米屋岡七、文林堂、廣屋久治郎、玉華堂などの近世名古屋の書肆或いは貸本屋の歴史も研究したいと思います。</p> <p>研究の息抜きには三歳半の娘との遊び、大好きなニューヨーク・ヤンキースの応援活動、古本屋の宝探し、ぶら歩きをします。あとは本格的な名古屋B級グルメ(八丁味噌系)の美食研究。</p> <div data-bbox="671 1308 1193 1568" data-label="Image"> </div> <p>「大惣」の蔵書印</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>この度、グローバル 30 比較言語文化プログラムにおいて日本文学・文化の授業が担当できるようなチャンスを与えていただき、誠に有難く思っています。これからの三年間を目指して、できるだけグローバル 30 修士課程の大学院生、或いは学部の留学生のために楽しく学べるような教育環境を築きたいと思います。私自身も大学生になってから日本文学(特に江戸時代の娯楽文学)の魅力が分かったものですが、第一歩として生徒さんに日本の名文を英訳で読んでもらって、</p>

	それから興味のあるかたが原本読書へ向かうのをサポートしたいと思います。
--	-------------------------------------